

県民フォーラム

日本人の食の未来

Citizen' Forum

The Future of Food for Japanese People

座 長

Chairperson

合田 敏尚 (静岡県立大学 副学長・食品栄養科学部 教授)

Toshinao Goda (Vice President/Professor, School of Food and Nutritional Sciences, University of Shizuoka)

河合 真吾 (静岡大学 農学部長・教授)

Shingo Kawai (Dean/Professor, Faculty of Agriculture, Shizuoka University)

日本人は何を食べてきたか？ — 1万年の歴史から読む未来 —

鬼頭 宏 / 静岡県立大学 学長

日本列島の人口は、3万年以上前の旧石器時代以来、長期的に波を描きながら増加を続けてきた。ヒトも他の動物と同様に生態系の生産力によって制限されるので、獣類や魚介類の賦存量、気候変動、植生の変化によって人口は変動する。しかしヒトは火を用い、道具を作り、農耕を発明した。ヒトは建造物を作り、宗教、法律などの制度ももつ。このような様々な装置群と人間の関係を文明系=文明システムと呼ぶ。どんな動植物を、どのように加工し、調理して食べるのか、また、誰といつ食べるのかといった食文化は、文明システムの主要な構成要素である。したがって人口の増減は文明システムの変遷とも密接に関係してきた。

日本列島で人口が大きく増加する局面は、新しい文明システムへの変化が起き、新しい食料資源が導入されて食生活が大きく変わった時代であった。しかし全く違う食習慣に入れ替わったのではない。日本列島では、地層のように古い食習慣の上に新しいものが積み上げられて伝統が築きあげられてきた。日本人の食生活は時代とともに豊かになったが、未来はどのようなものとなるのだろうか。健康長寿の観点から大胆に想像してみたい。



鬼頭 宏 / 静岡県立大学 学長

略 歴	1971 経済学修士（慶應義塾大） 1974 慶應義塾大学院経済研究科博士課程 単位取得退学 1976 慶應義塾高等学校教諭 1980 上智大学経済学部講師 1982 上智大学経済学部 助教授 1989 上智大学経済学部教授 2005 上智大学院地球環境研究科教授（兼任） 2012 上智大学経済学部特別契約教授
受 賞 歴	2000 日本生活学会 今和次郎賞 2010 日本人口学会 普及奨励賞
Past Records	1971 M.A. (Economics, Keio University) 1974 Keio University, Graduate School of Economics, Doctoral Course (credits withdrawal) 1976 Teacher (Geography), Keio High School 1980 Lecturer, Faculty of Economics, Sophia University 1982 Assistant Professor, Faculty of Economics, Sophia University 1989 Professor, Faculty of Economics, Sophia University 2005 Professor, Graduate School of Global Environment Studies (concurrent post) 2012 Specially appointed professor, Faculty of Economics, Sophia University
Special Awards	2000 Japan Society of Life Science (Lifology), Kon Wajiro Award 2010 Population Association of Japan, Award for spreading of demography

静岡で紡ぐ "食育の環"^わ

米倉れい子／株式会社 食STORY 代表取締役

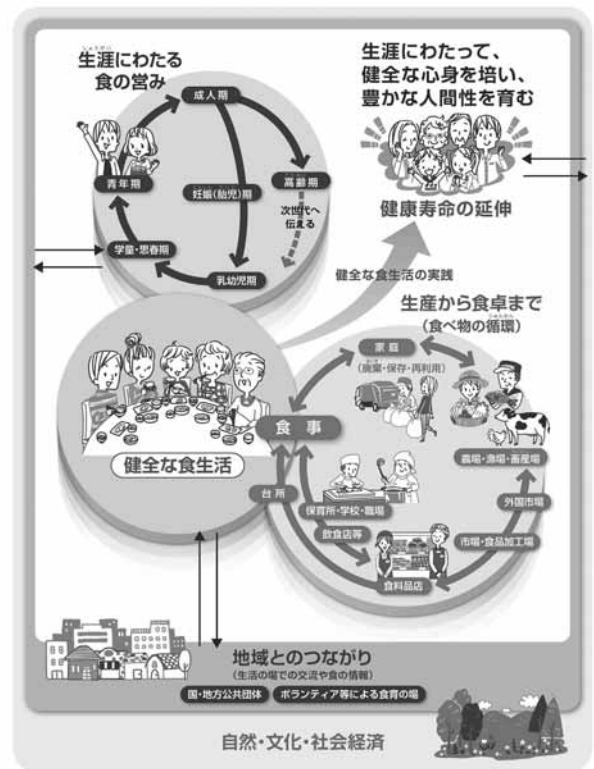
平成17年に「食育基本法」が制定されて12年が経ちます。現在は「第3次食育推進基本計画」を踏まえた食育が全国各地で推進され、静岡においても、各地の食育推進計画に基づく食育が展開されています。

現行の第3次食育推進基本計画は、近年の社会環境や国民の生活様式の変化にも目を向け、「多様な暮らしに対応した食育」や「食の循環や環境を意識した食育」の推進などが新たに設定されました。また、これまでの生活者個々人の食に関する意識や実践状況を促す食育に加え、国民ひとりひとりが健全な食生活を実践しやすいよう環境づくりにも着目した食育が重視されるようになりました。

静岡県は、全国トップクラスの健康寿命を誇るだけでなく、多様な風土と温暖な気候から多彩な農産物に恵まれています。

本フォーラムでは、食を取り巻く日本の変遷を振り返りながら、静岡の特徴や良さを生かした食の魅力をはじめ、健康、農業、教育、環境等、多様な関係者が“連携・協働”する中でつながり広がる食の未来について、食育の視点から話題提供させていただきます。

実践の環^わを広げよう



農林水産省「第3次食育推進基本計画」
啓発リーフレット



米倉 れい子／株式会社 食STORY 代表取締役

- | | |
|------|--|
| 主な学歴 | 2000 共立女子大学家政学部食物学科管理栄養士専攻卒業 |
| | 2008 女子栄養大学大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程卒業 |
| 主な職歴 | 2000 管理栄養士を取得 |
| | 2002 独立し、フリーランスとしてスポーツ栄養や公衆栄養の分野に取り組む。 |
| | 2005 日本セーリング連盟 (医事・科学委員会委員 (管理栄養士)) |
| | 2008 日本セーリング連盟 (北京オリンピック特別委員会アドバイザー (管理栄養士)) |
| | 2009 厚生労働省に栄養系技官として入省 |
| | 2010 消費者庁食品表示課 (食品表示調査官、衛生調査官) |
| | 2013 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 (栄養専門官) |
| | 2015 内閣府政策統括官 (共生社会政策担当) 付食育推進室 (参事官補佐) |
| | 2016 農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課 (課長補佐) |
| | 2017 厚生労働省を退職 |
| | 2017 株式会社 食STORYを設立 |

うま味物質の栄養生理学的有用性

鳥居邦夫／株式会社鳥居食情報調節研究所 代表取締役

我々を含め動物は他の生命体を捕食し、生命活動に必要な各栄養素を消化吸収過程を通じて獲得しなければならない。食物特有な化学感覚である匂や味は摂取している食物に生理的に求める栄養素が含まれるか否かの見極めの有力な情報である。例えばおいしそうなフレーバー（匂や味）の中で、エネルギー源は甘味、塩類は塩味、蛋白質はうま味（グルタミン酸）で理解出来る。加えて消化管を中心に生じる内臓感覚は主に迷走神経求心性線維により脳に各栄養素摂取の情報を入力するが胃枝はアミノ酸、糖、塩類の中でグルタミン酸のみに応答を示した。この胃から生じるグルタミン酸シグナリングは食物摂取の認知と消化管での消化吸収の引き金として働く。さらに脳に入力後に食欲を調節するとともに食事性産熱を生じ食事性肥満を防ぐ

ことになる。特に食べ過ぎを防ぐ上で成長期において重要である。

一方、グルタミン酸を含まない飼料を与えられたラットの血中グルタミン酸濃度は正常値を保ったが迷走神経胃枝求心性線維は胃の拡張刺激以外には全く応答せず、消化吸収機能は失調した。従って、食事性グルタミン酸は消化管粘膜に直接作用し消化管の機能が正常に働くよう促していると考えられる。

以上より、成分栄養流動食は適切な量の遊離のグルタミン酸を含有することが消化管を正常に機能させる上で必要な栄養素と言える。実際嗜好濃度にグルタミン酸を食事に添加することは栄養管理下にある入院患者や高齢者の生活の質を維持し高めることにつながると考えられる。



鳥居 邦夫／株式会社鳥居食情報調節研究所 代表取締役

略	歴	1971	東京大学農学部畜産獣医学科卒(獣医師)。味の素(株)入社
		1977-79	米国ペンシルバニア大学モネル化学感覚センター(客員研究員)留学
		1985	博士学位(東京大学農学博士)授与
		1990-96	科学技術振興機構、創造科学技術推進事業(ERATO) 鳥居食情報調節プロジェクト総括責任者(兼任)
		2003	味の素(株)理事
		2006	博士学位(名古屋市立大学医学博士)授与
		2013	味の素(株)名誉理事退任。(株)鳥居食情報調節研究所 代表取締役。
Past Records		1971	Graduated, DVM, Faculty of Agriculture, Tokyo University.
		1977-79	Visiting Scientist, Monell Chemical Senses Center, University of Pennsylvania, USA.
		1985	Received Ph.D.(Nutrition), Faculty of Agriculture, Tokyo University.
		1990-96	Director of Torii Nutrientstasis Project, ERATO, JST.
		2003	Fellow of Ajinomoto Co., INC.
		2006	Received Ph.D. (Brain Science), Faculty of Medicine, Nagoya City University.
		2013	Resigned Ajinomoto Co., Inc. CEO, Torii Nutrientstasis Inc.